NPO

中帰連平和記念館

CHUKIREN HEIWAKINENKAN

「国際平和博物館会議」に参加して

理事長 松村髙夫

国際平和博物館会議が 2014 年 8 月 19 日 ~ 22 日、韓国のノグンリで開催され、「中帰連」平 和記念館代表として、芹澤氏と松村が参加し報告した。この国際会議は第1回がイギリスのブ ラッドフォード大学で開かれ、以後3年に1度ずつ諸外国で開かれてきたもので、前々回は日 本の立命館大学で開かれた。今回は、記念館代表2名がノグンリの会議にでたというだけでな く、「『悪魔の飽食』を歌う合唱団」・東京、および「中帰連」平和記念館の宮本司書や吉沢、 水沢氏などの会員を含むサポーターから成る計 30 名(私や芹澤さんも一緒)が、9 月 16 日に 成田をでて、戦後韓国の3大虐殺事件の跡をめぐる旅を企画したところに特徴があった。済州 島では虐殺事件の犠牲者墓地と平和記念館を見学し、光州では光州虐殺事件(1980 年)の国立 墓地と記念館を見学し、光州市民と交流会をもち、ノグンリではノグンリ虐殺事件(1950年) の現場と記念館を見学した。今回の国際会議はノグンリ虐殺事件を記念する公園に建つ会議場 で開かれたのである。その初日に合唱団が組曲「悪魔の飽食」、これは731部隊の悲劇をう たった森村誠一作詞、池辺晋一郎作曲の全1曲からなるカンタータであるが、その抜粋と、フ クシマ3・11に関する歌を歌おうという算段だった。実際に、国際会議の開会式の冒頭に、 合唱団を指導してきた金田まり子先生が、「死んだ女の子」「アヴェマリア」を独唱すると、会 場は厳粛な雰囲気につつまれた。来賓のあいさつのなかに、済州島虐殺記念館と光州事件虐殺 記念館の代表の挨拶があったのもむべなるかなであった。午後の基調報告の前の 30 分間に、合 唱団が予定通り「悪魔の飽食」からの抜粋とフクシマ3・11関連の歌をうたった。これも30



(全体会議)

| 目 次 |
|-------------------------|
| ・「国際平和博物館会議」参加・・・・1 |
| ・大河原・元中帰連副会長逝去・・・・ 3 |
| ・新管理所所長交代挨拶・・・・・・ 3 |
| ・「ハーグ国際研究所」来館・・・・・4 |
| ・「戦争遺跡保存全国ネット」参加・・ 4 |
| ・「記念館報告を聞いて」・・・・・4 |
| ・「博物館ネット全国交流会」参加・・・5 |
| ・「連載記念館資料室から」・・・・・6 |
| ・第 10 回「中帰連に学ぶ会」・・・・・ 7 |
| ・シリーズ「映像資料から」・・・・・8 |
| ・建屋修理完了・・・・・・・・ 8 |
| ・「記念館日誌」・・・・・・・ 8 |

数カ国からの参加者に深い感動を与えた。

ノグンリは私にとって特別の意味を持つと ころである。私はノグンリを初めて訪問した のは、2002年夏だった。ノグンリ虐殺事件 は朝鮮戦争勃発一ヵ月後の 1950 年 7 月下旬 に起こった。米軍が村から誘い出しソウルと プサンを結ぶ鉄道に沿って歩かせ、ノグンリ 村付近に来たときに米軍が戦闘機からその避 難民にむかって爆弾を落とし、最初の虐殺を 行なった。生き延びた避難民は近くの双子ト ンネルに避難したが、そこの避難民に向かっ て、近くの丘から機関銃を何と 60 時間にわ たり射撃しつづけた。トンネル内は死屍累々。 その死者は300人を超えている。子供を亡く し、妻が重症を負ったチョン・ウニョン氏は、 事件のあとノグンリ村に帰り、真相究明に乗 り出した。証拠を集め、米国政府に幾度か抗 議するが、いずれも無視された。

韓国が民政化されたあとチョン氏は虐殺事 小説の形で刊行するが、これは事実だると、 道感した AP 通信の記者たち 4 人が当事性に 「力がと、 「力がと、 「カーヨーク」を表表すると、 「カーヨーク」を表表する。 「カーコーク」を表表し、 「カーコーク」を表表し、 「カーコーク」を表表し、 「カーコーク」を表表し、 「カーコーク」を表表とは。 「カーコーク」を表表し、 「カーコーク」を表表。 「カーコーク」を表。 「カーコーク」を表表。 「カーコーク」を表表。 「カーコーク」を表表。 「カーコーク」を表表。 「カーコーク」を表子。 「カーコーク」を表表。



(「分科会」で発表する松村理事長)

き取りなどなどを時系列的に並べて分析すると、上司からの命令による射撃であることをソウルであったので、そのことをソウルで開催された「第1回ノグントン報告を真正へはクリントン報告を真正を担けったのでは対した。これはクリントン韓国の全国の全国の場所にもした。よりついた。そのことを実行してに報道のあとを実行しては、記録のあとを実行してとも、これは、というの場所になりのあるとを実行して、これのの最後に、アグンリは、NoGun(兵器の無い)Ri(里)になりつある、と述べた。

新しく出来たその記念館で、今回、第8回の国際会議が開かれる事になったのである。その平和公園のはずれに双子トンネルが残され、壁には米軍の銃跡が遺されている。今回の会議の約1ヶ月前に、惜しくもチョン・ウニョン氏は亡くなられた。彼の『君よ、我々



(「ノグンリ平和記念館」前の記念撮影)

の痛みがわかるか』は寿朗社から和訳・刊行され、私はそれに長い「解説」を書いているのでお読みいただけたら幸甚である。

私の会議での報告は、同封されているので 詳しくは省略するが、撫順戦犯管理所での再 教育と帰国後の中帰連の結成と活動、それを 引き継いだ「受け継ぐ会」の活動を紹介した ものである。芹澤氏が私の報告中、随所で写 真や地図のスライドを豊富にスクリーンに映 して下さった。持ち時間 25 分間を有効に使 うことができたのは、前夜 12 時すぎまで、 綿密に打ち合わせた結果だと思う。報告の最 後の3分の1は中帰連の活動メンバーとして 三尾豊氏と篠塚良雄氏をとりあげたが、これ は合唱団が会議で「悪魔の飽食」を歌うこと になっていたので、731部隊の関連からで ある。三尾氏は大連の憲兵隊として731部 隊送りをした当事者であり、篠塚氏は731 部隊の少年隊員としてハルビン郊外平房で実 際に細菌研究や人体実験の手伝いをさせられ たからである。もちろん731部隊や細菌戦 の裁判で両者とも被害者の立場に立って重要 な証言を行なったことも報告した。

報告の最後には、日本が自公政権のもとで 現在ファシズム前夜であることを強調し、「中 帰連」平和記念館が日常的な活動に加え、特 別秘密保護法や集団的自衛権の閣議決定など に抗議し、反対の意思表示をしてきたことも 伝えた。

他の報告を聞き、パネル展示もみたが、日本のグループの報告は押しなべて優れており、展示もじつに分かりやすく効果的になされていた。率直にいって外国の報告は、わが博物館の広さはこれこれで、こうしたものを展示しているというだけの失望する報告もしているというだけの失望する報告も(広島・長崎)を扱うものがかなり多くみられたが、原発を扱うものは少なく、私はこれに対する批判的質問をしたが、ほとんど答えが帰ってこなかったのには憂慮の念を深くした。もちるん日本の諸グループの原爆・原発にかんする報告と展示は重厚な訴えに満ちたものだった。

国内の平和ミュージアムのネットワーク・交 流会に参加するとともに国外のそれに参加す ることも意義あることだと実感した次第であ る。

「大河原孝一・元中帰連副会長逝去」



札幌市在住の「中帰連」元副会長の大河原孝一さんが11月7日に 遊去(享年92歳)されました。葬儀その他は全て身内でさせていただきましたとのことで

した。11 月 9 日の「理事会」冒頭で理事・監事全員で大河原さんへ黙祷を捧げました。

大河原さんは「中帰連」でのご活躍は元より、記念館の土地、建物の購入に際し全国の元中帰連の仲間を訪ね歩き「カンパ」を集めて下さいました。長い間、ありがとうございました。心からご冥福をお祈り申し上げます。(「遺影」は2014.6.17 芹沢 撮影)

「撫順戦犯管理所」の張継承所長の後任に 就任された孫杰副所長からご挨拶状が届きま したので、下記にご紹介させて戴きます。

「交流と協力を深め、 新たな友好の局面を切り開こう」

尊敬する中帰連平和記念館会員 および関係者の皆さま

はじめまして、孫杰と申します。漢民族で、 1975年の生まれです。イギリスの大学院で 修士課程を修了し、勤務を経て、遼寧省に戻 りました。2014年7月に撫順戦犯管理所副 所長に就任致しました(業務全般を司る所長 相当)。

撫順戦犯管理所という場を通じて、元中帰連の方々や、NPO 中帰連平和記念館会員および関係者・友人の皆さまと知り合いになれますことを大変嬉しく思います。

「天下に知己があれば、世界の果ても、隣近所のようなもの」という言い方があるよう

に、我々は一衣帯水の隣邦であり、互いに真心を打ち明けて深く交わることのできる親友でもあると信じております。私は、皆さまと共に先達たちが長年にわたり心を込めた努力で築きあげてきた信頼、友情を受け継ぎ、さらにますます発揚していく所存です。今後、交流と協力を拡大し、我々の友情をさらに深め、輝かしい未来を切り開いていこうではありませんか。

何卒宜しくお願い致します。

撫順戦犯管理所 孫杰 2014 年 11 月 4 日

「正義のためのハーグ国際研究所」 が来館・取材

会報 10 号でお知らせした『ZOOM JAPAN』を読んで記念館や松村理事長を知ったオランダの『正義のためのハーグ国際研究所』のマリーニ・ラクサミナラヤン博士が11月9日来館しました。

当日は午前中に理事会がありましたが、午後からの『中帰連に学ぶ会』を傍聴していただき、その後、松村理事長が2時間ほどインタビューを受けました。

また、前日の8日には東松山市の『原爆の図・丸木美術館』をご案内し、その後、同市内の南京大虐殺や従軍慰安婦の表記を削除した『埼玉県平和資料館』の現状を見ていただきました。



(取材するマリーニさん右と、松村理事長)

『戦争遺跡保存全国ネット』参加報告

会報 10 号で報告の通り今年から『戦争遺跡保存全国ネット』に参加し、8 月 16 ~ 18 日に明治大学生田校舎で開かれた『第 18 回戦争遺蹟全国シンポジウム』に芹沢事務局長が参加し報告しました。当日の全参加者は主催者から 510 人と発表されました。

17 日は 3 つの分科会が設定され、芹沢が第三分科会『平和博物館と次世代への継承』のコーナーで中帰連と記念館について約 30 分の発表しました。

日本軍の加害を主に運動をしている状況 や、管理所での人道的寛大措置、軍事裁判で は周恩来が3回も判決原案を書き直させ一人 の死刑も無期も認めなかったこと、そして、 帰国後も「赤、大陸帰り」とレッテルを貼ら れ、公安につけられ就職も困難だった中で「中 帰連」を立ち上げた事などを報告しました。

また記念館への内外からの取材受け入れ報告もし、当日は「後日、来館したい」と何人かの方と名刺交換もさせて戴きました。

当日の運営委員で記念館の「藤井資料研究会」でもお世話になっている遠藤美幸さん(神田外語大講師)が『日吉台地下壕保存の会』の会報に当日の感想を書いて下さり、ご了解を得て下記に転載させていただきました。

第三分科会(平和博物館と次世代への継承) 「NPO・中帰連平和記念館」 の報告を聞いて

遠藤美幸(運営委員)

「NPO・中帰連平和記念館」(埼玉県川越市)」は、一般的にいう戦争遺跡とは少し趣が異なるかもしれません。報告者の芹沢さんは、報告の冒頭で、「この中帰連平和記念館では日本軍の『加害』にこだわった活動をしています」と述べています。この記念館は、戦時下の中国大陸での加害行為を証言してきた元日本人戦犯たちによる「中国帰還者連絡会」(中帰連と略称)を支援し、2002 年に解散した中帰連の関連資料の散逸を防ぐために2006 年 11 月に発足しました。中帰連関係資

料以外に教育学、社会学、歴史学などの様々な研究者の蔵書約5万冊を所蔵しています。 最近では自衛隊の内部文書を使った著作で知られた軍事評論家の藤井治夫さん(2012年3月死去)の資料が寄贈されました。昨年の4月から、私は記念館の一室で、数名の仲間とともに「藤井資料」の整理分類の手伝いをしています。

さて、そもそも中国帰還者連絡会(1957 年発足)をつくった元日本人戦犯とはどのよ うな人たちなのでしょうか?日本の敗戦後 60 万人以上といわれる日本軍将兵がソ連に 抑留されました。いわゆる「シベリア抑留」 です。1950年7月、そのシベリアに抑留中 の日本人捕虜から約 1000 名が選ばれ、中国 に「戦犯」として移送されました。彼らが着 いた先は中国・遼寧省の炭鉱の街・撫順でし た(他にも日本人戦犯を収容した管理所は山 西省太原にもあり、140名の戦犯が収容)。 日本兵らはこの『撫順戦犯管理所』で、戦犯 として6年間を過ごすことになります。芹沢 さんは当初の『管理所』での様子を次のよう に述べています。「日本兵らははじめのうち は『オレたちがなぜ戦犯なんだ!』と管理所 の職員に反抗しました。一方で、中国人職員 は日本人への恨みを乗り越えて人権を尊重し 人道的な待遇をしました。その職員の中には 日中戦争の中で家族を虐殺された被害者も少 なくなかったのです。」このような中国の「寛 大な」戦犯政策の中で、次第に元戦犯たちは 中国側の被害者の苦しみを深く知り、猛省し、 ついには自らの加害行為を告白するようにな ります(これを「認罪」と呼びます)。元戦



(全体会議)

犯たちは自分たちのこうした心の変化を「鬼から人間へ戻された」と表現しています。1956年の夏、瀋陽と太原で戦犯裁判が行われ、一人の死刑や無期懲役者も出さず、起訴された元政府・軍高官の 45 人を除き全員釈放され帰国の途に着きました。

帰国した翌年(1957 年)、彼らは中帰連を 結成して、反戦平和と日中友好のための活動 を行います。中でも中帰連の注目すべき活動 は、自らの加害行為の証言活動です。芹沢さ んは、中帰連の人たちの加害証言の事例をい くつか紹介されましたが、どれも聞くに耐え ない残酷なものです。例えば、元軍医の湯浅 謙さんは、「野戦病院では生体解剖はどこで もやっていた。731 部隊だけでない」と話し、 金子安次さんは、中国人女性に対する輪姦や 強姦などの自らの体験を告白しました。

過去の戦争が私たちに遺し伝えてきたもの とはいったい何でしょうか?

中帰連平和記念館は、元日本兵らが中国人に行った加害の実態を証言する中で、被害者の苦しみをどのように受け入れ、加害者と認ったの関係性をどのようにつくり、乗り越来の関係性をどのようにつくり、乗り越れの変化の動力に入間の心の変化の動力とものがあるとものがあるともがあるともにも話せないの関を抱えれるの戦争の実態を後世の人々に伝和を対した。戦争とは何か、まさに加害の実態をはないの戦争遺跡」であると思いました。

「平和のための博物館ネット 全国交流会」参加

関東、関西の交互で毎年開かれている『平和のために博物館市民ネットワーク全国交流会』が 10月 25,26日の両日、明治大学生田校舎で開かれ 29名が参加し13人が発表しました。発言団体は東京大空襲戦災資料センター、ピース大阪、山梨平和ミュージアム、丸

木美術館、ピース愛知、原発災害センター、 歴史教育者協議会、立命館国際平和ミュージ アム、WAM(女たちの戦争と平和資料館)、 満蒙開拓平和記念館、ノーモアー・ヒバクシャ記憶遺産の継承センターなどが発表しまし た。

「中帰連平和記念館」は松村理事長が「ノグンリ国際会議」の報告をした後、芹沢事務局長が中国中央TVや香港フェニックスTV、ZOOM JAPAN等の来館・取材などの近況を報告をしました。

来年の開催は名古屋(ピースあいち)とし、 その後は「東京 大阪 東京 名古屋 東京」 との予定が了解されました。また運営委員の 一人が体調不良で辞任し、新たに4人の運営 委員が承認されました。

連載 記念館資料室から 第6回 「自衛」の名のもとの戦争とは? 石田隆至(「中帰連に学ぶ会」事務局長)

今年7月1日、安倍晋三政権は「集団的自衛権」の行使容認を閣議決定しました。中帰連の人々であれば再び国民を戦争に駆り立てる動きとして猛烈に反対していたことでしょう。「自衛権」という言葉のせいか、「中国の脅威」が煽られているせいか、危機感の高まりは今ひとつでした。

しかし、これまでの戦争はおよそ「自衛」の名の下に行われてきました。直近のイラク戦争やアフガン攻撃をとってもそうですし、中国はじめ他のアジア諸国に対する侵略、「日本の生命線を守る」ための〈自衛〉、「解という大義を掲げて実行されたものです。という大義を掲げて実行されたものです。しかも、「盧溝橋事変」にせよ、その内実は関係ではよいうによる誤略でした。それを中国側の仕業だとなすりつけ、「自衛」という名目で戦争がははよりつけ、これらを想起すれば、現在は既に戦争の道に突き進んでいるという認識に繋がってきます。

以下は、「自衛」の名の下に行われた「聖戦」の実態を、元日本人戦犯が書き残した手記です。「神樹における中国人虐殺事件」というタイトルが付いています。今回は手記の書き手の名前に取り消し線が引かれていましたので、S.Y.さん(1917 年生まれ、鉄道警護の准尉)と表記しておきます。

S さんが任務に就いていた神樹は中国東北部の辺境の街でした。

「日本帝国主義は北満の天然資源を掠奪し、かつソ同盟〔ソ連〕に対する戦略的意図の下に、1936 年以来綏化 佳木斯間の新線打通を計画し、1938 年 4 月には綏化 神樹間の第1期工事を完成し、引き続いて線路を延長していた。神樹の工事現場には約 950 人の中国人工人(こうじん)〔強制連行され強制労働をさせられた人〕がつなぎとめられている。この人達は華北、山東、山西等で日本侵略軍の砲火によって土地と家を奪われ、銃剣によって引き出された農民が主体であった」。

「五族協和」の理念を掲げた"理想国家" 「満洲国」では、日本人が中国人を強制連行 して強制労働をさせていたことが記されてい ます。その実態がさらに綴られます。

「工人達は路盤工事と線路敷設が仕事だった。日の出から夜は暗くなるまで作業は苛酷だった。笞と罵声は常にとんでいた。中国人工人の食物は高粱と塩漬の野菜だった。酷使と栄養失調で壊血病(かいけつびょう)が続出し、工人は手足から腐り始め、体内が侵されて死んでいった。

東亜土木〔連行側の企業名〕の現場主任は 言った。"中国人には高梁と塩漬が相場だ。 使えなくなっても後釜には四億人が控えてい ますからナ…"。

建設事務課の医師は言った。"薬は日本人 の治療に使うもので、中国人に使うものでは ない"と」。

こうした結果、「1938 年 4 月から 11 月までに中国の工人 250 名以上が、抜け出すことのできない惨酷な酷使の中で、現場で仕事をしながら次々と死んでいった。屍体は仲間の中国人工人によって、日本人監督の笞の下で運ばれ、何十もの屍体が一緒に焼かれた。これらの中国人の反抗を恐れた東亜土木と満鉄

側の要請によって、更に綏化隊から佐野一長が増派された。酷使によって動けなくなった工人に対しては"穀つぶし"だと罵り、虐待するばかりでなく、高倉〔鉄道警護隊」、佐野の共謀の下に、『治療してやる』と欺して劇薬を注射して殺害していった。こうして殺された人々は二十数名に上った。

「自衛」「聖戦」とは<侵略><殺戮>の 別名である、歴史はそう警告しています。

第10回「中帰連に学ぶ会」報告

今回は「第8回国際平和博物館会議(韓国) への中帰連平和記念館の参加報告会:今後の 記念館事業を展望するために」をテーマにし て開催しました。これは、本号の他の記事で も紹介されていますように、今年9月に韓国の ノグンリで開催された同会議で、当記念館の 歴史や活動、意義などについて報告を行った 際の様子や反応をめぐって学び合うことを目 的としたものでした。また、参加者は同時に、 ノグンリを含めて、済州島 (4·3事件)、光州 (5・18事件)という韓国3大虐殺事件の現地 もめぐってこられましたので、合わせて報告 して頂き、感じたことを共有する場としまし た。当日は会員のほか、初めて参加された市 民、オーストラリアやオランダからの研究者 も参加するなど国際的な報告にふさわしい雰 囲気となりました。

会議での報告内容につきましては、報告者の松村理事長、関連画像を投影してプレゼンをサポートした芹沢事務局長の記事に譲りたいと思います。この場では、同報告に対する質問や反響についての質問がありましたので、御紹介しておきたいと思います。

中帰連が歴史認識問題に正面から取り組んできた戦友会的組織であったという前提を踏まえ、アメリカの参加者から「尖閣問題をどう思うか、どちらの領土なのか」という質問が出たとのことです。松村理事長は、個人的

見解と前置きしたうえで、"結論的には日本 の領土とはいえないし、中国側からも確かな 根拠が出されているわけではないため、歴史 学的には判断が付かない、将来的には共同管 理が必要になるのではないか "、と応えられ たそうです。それを聞いた長崎の被爆者団体 関係者から「自分も同じ考えだ、周りには今 まで言えなかったが」という反応があったそ うです。日本国内では、政府も大手メディア も日本領であることを前提にした主張が大半 を占めているなかで、確かな根拠に基づいた 判断をしていけば、別の見方がありうること を主張することさえ躊躇わせる雰囲気が確か にあります。そうした中、「侵略の歴史」を正 面に据えたうえで「現在の問題」を考える中 帰連特有の視点の重要さがアピールできた機 会となったようです。国際的な会議でこうし た観点を提起することで、日本を取り巻く自 国中心史観を相対化していく必要性を、芹沢 事務局長も指摘されていました。

また、会議に同行された吉澤倫子さんから は「光州ビエンナーレ」の作品展を鑑賞した 様子が報告されました。「ナヌムの家」で活動 している画家の作品を中心に解説されるとと もに、セウォル号事件をめぐる朴政権の対応 を批判する作品の展示拒否の動きがあったこ とに触れ、「光州(事件)の精神」に基づいて 「今」を問題化するのが「光州の精神」だと 芸術家たちがこれに抗議し、作品を撤退させ る動きを見せて抵抗したエピソードが紹介さ れました。吉澤さんは「自分たちは中帰連に ついて学んでいるけれども、それを『過去の 額縁』に入れておくのではなく、今を生きて いるなかで活かしていくことが大事なのだと、 あらためて気付いた」と話されました。現在 の政治・社会状況下での当館の存在意義につ いて指摘して頂いたと思います。

最後に、ハーグからの参加者が「戦争について知識も多いし、韓国での体験もしてきた皆さんは、これらをどう積極的な何かに、ゴ

ールに向かって持っていくことができると考えているか」と質問され、韓国にも同行された水沢さんから「若い人に〈現実〉を見せることで働きかけていくことが重要」との反応がありました。本館の活動の国際的な展開の重要性を確認しあう場になったと考えています。(文責:石田隆至)

記念館「映像資料」から



松井稔監督の『日本鬼子』(リーヘ・ソ・イス・) 2000 年公開) は長い間「DVD」 化の要望がありましたが、遂に実現し 11 月 7 日発売になりました。

1931 年の満州事変から敗戦までの日中15 年戦争で、中国大陸にいた元

皇軍兵士(中帰連)14人が自ら行ったあらゆる残虐行為を証言した衝撃のドキュメンタリー映画です。

「焼き尽くし、殺し尽くし、奪い尽くし」の三光作戦どころか、強姦、試し斬り、非道な拷問、井戸に落とした母子めがけて手瑠弾を投げ込み爆殺、七三一部隊実験、中国人を使つた人間地雷探知機、人肉食、細菌化学兵器 あらゆる加虐行為を「実際の戦争を伝えたい」という痛切な思いで勇気を持って告白した実録です。

中国では『前事不忘 後事之師』(前の事を忘れず 後の教訓する)との諺があり、独ヴァイツゼッカー元大統領も敗戦 40 年の国会演説『荒れ野の 40 年』で「過去に目を閉ざす者は結局のところ現在にも盲目となります」と全く同じ事を言っています。

一般ソフト販売店やインターネット市場 でも入手できます。「記念館」でも仲介致し ます。税込価格¥ 5,184 (カラー 160 分)

建屋一部修理

記念館の建物は中古の倉庫を購入したため、外壁の剥離や雨樋の破損など老朽化が進んでおり、先日、一部修理を依頼し4日間かけて、前面壁の塗り替え、裏の勝手口壁の貼り替え、樋の修理などの工事が完了しました。



記念館日誌

- ・8月20日篠塚良雄さんの遺品受領
- ・9月7~10日「外壁塗装」等修理
- ・9月10日 JRより「合作社資料] 受領
- · 9 月 19 ~ 22 日 「国際平和博物館会議」
- ・9月30日 東京外大留学生支援バザーに被災地当ての本を寄贈。
- ・11 月 4 日 共同通信記者が来館・取材
- ・11 月 8 日「正義のための国際研究所」 マリーニさん来館・取材
- ·11 月 9 日 2014 年度「第 3 回理事会」開催

『NPO・中帰連平和記念館』 〒 350-1175 埼玉県川越市笠幡 1948-6

TEL&FAX: 0 4 9 - 2 3 6 - 4 7 1 1

$$\label{eq:commutation} \begin{split} E\text{-mail:npo-kinenkan@nifty.com} & M \ L \ : npo-kinenkan@freeml.com \end{split}$$

H P: http://npo-chuukiren.jimdo.com/

郵便振込口座名「NPO・中帰連平和記念館」 振込口座: 0 0 1 5 0 - 6 - 3 1 5 9 1 開館日:「水、土、日」(10:30 ~ 16:30)

(なるべく事前にご連絡下さい)